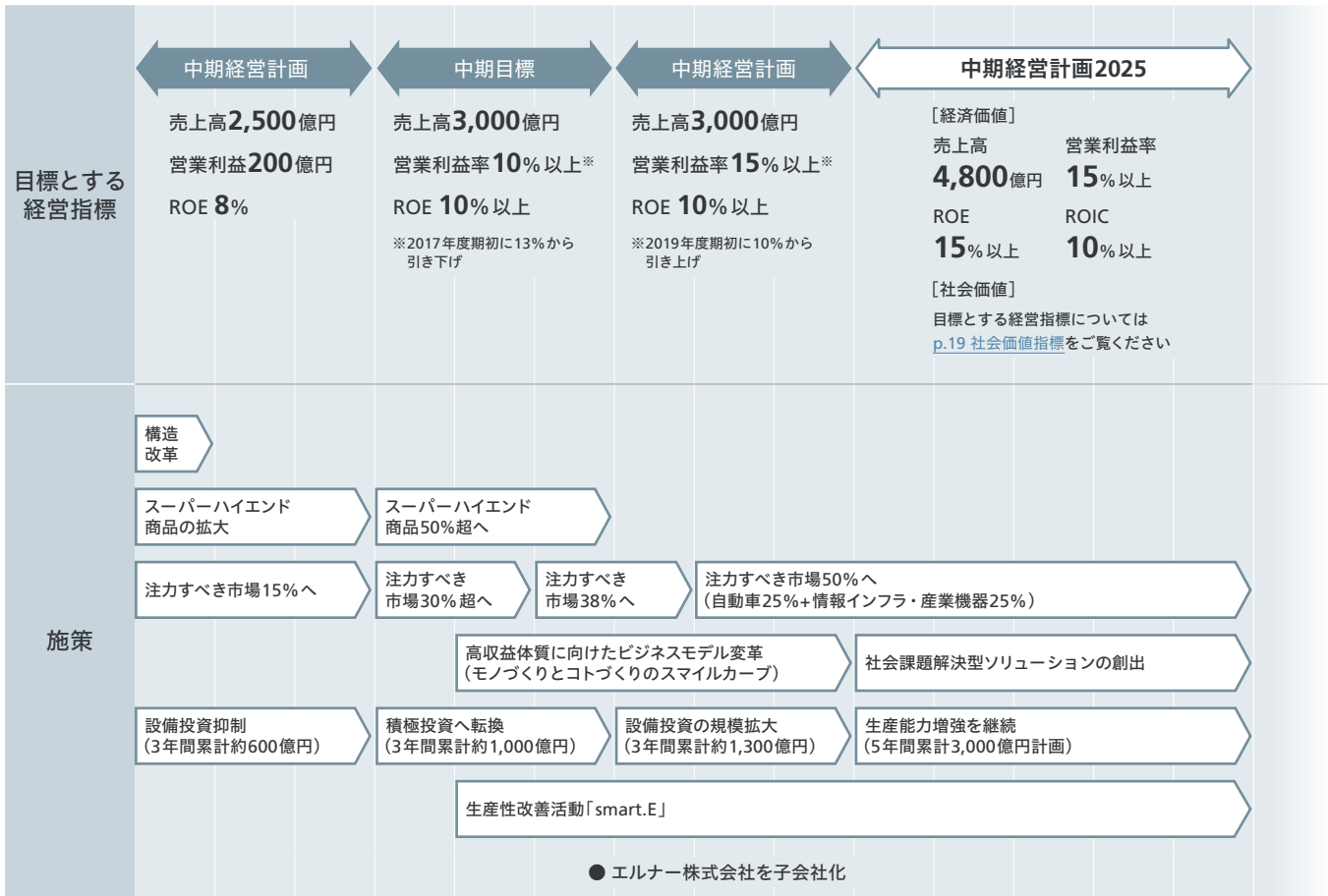
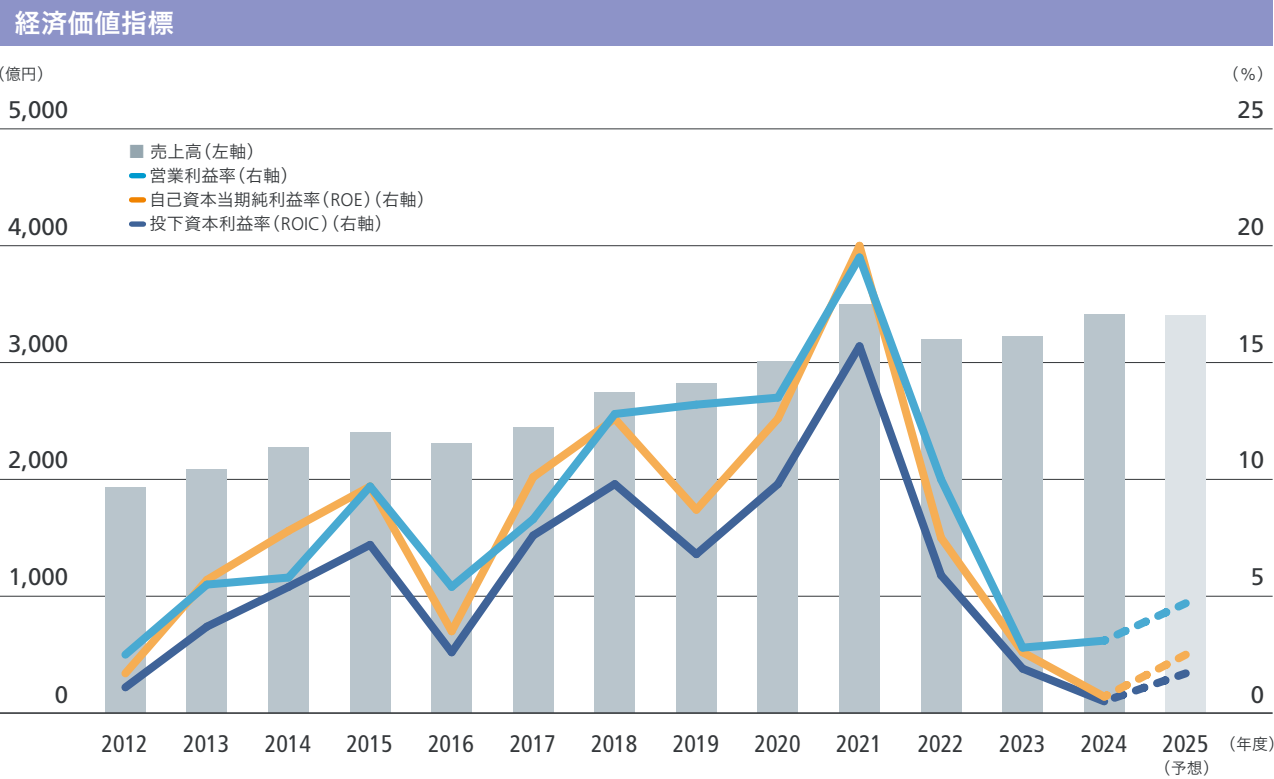


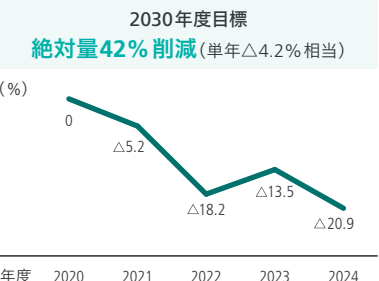
中期経営計画2025 (2021～2025年度)

経営指標の推移と目標



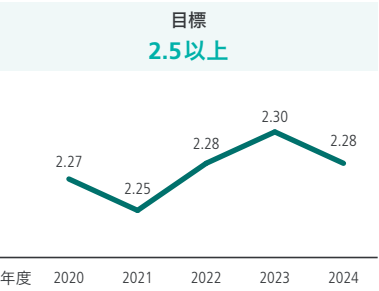
社会価値指標

GHG排出量※

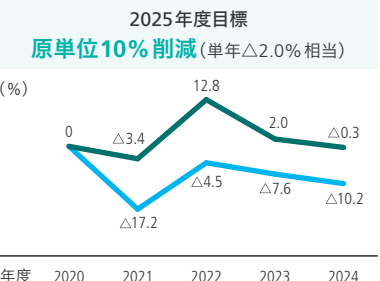


※算定方法を変更し、2020年度以降の一部数値を遡及変更

ワークエンゲージメント

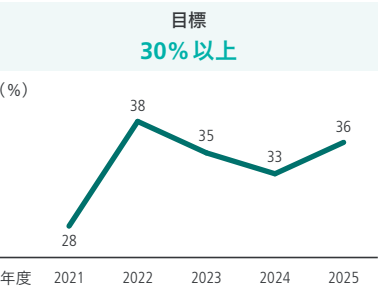


廃棄物※・水使用量



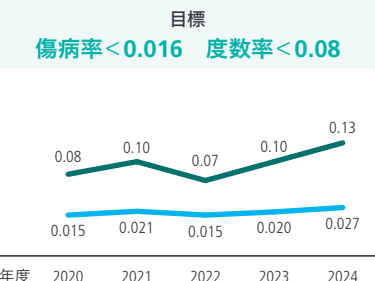
※算定方法を変更し、2020年度以降の一部数値を遡及変更

新卒女性採用率※



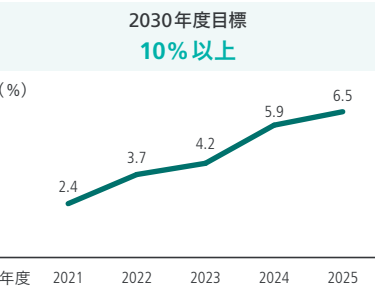
※4月1日時点

傷病率・度数率



※算定方法を変更し、2020年度以降の一部数値を遡及変更

女性管理職比率※



※4月1日時点

中期経営計画2025の進捗と課題

中期経営計画2025(2021～2025年度)では、安定的な成長が見込める自動車市場、情報インフラ・産業機器市場を「注力すべき市場」と定義し、この市場を中心に売上伸長を図りつつ、経済価値と社会価値を両輪とした企業価値向上を目指しています。経済価値においては、売上高、営業利益率、ROE、ROICを経営指標に設定しました。社会価値においては、GHG排出量、廃棄物・水使用量、職場の安全、ダイバーシティなどを経営指標に設定しました。また、計画初年度の2021年度から5年間で3,000億円の設備投資計画を進めてきました。

2021年度は好調な市場環境を背景に、営業利益率、ROE、ROICが最終目標を超過するなど順調な滑り出しとなりましたが、2022年度は電子部品需要が一転して各経営指標が悪化しました。2023年度も情報機器や情報インフラ・産業機器市場の需要が回復せず、「注力すべき市場」の売上構成比は48%と、目標の50%を下回りました。2024年度には情報機器や情報インフラ・産業機器を中心に需要回復が見られたものの、2022年度後半から続いた需要の低迷や先行投資の影響により、計画最終年度である2025年度での経済価値の目標達成は難しい見込みですが、事業活動は着実に推進してい

ます。特に、積層セラミックコンデンサ(MLCC)やインダクタなどの高付加価値製品の需要は堅調であり、「注力すべき市場」の売上構成比は、2024年度には再び50%に到達しましたが、2025年度はFCF創出に向けて設備投資を抑制するため、当初計画していた5年間累計の設備投資額3,000億円を下回る見込みです。なお、AIサーバーや自動車向けを中心とした生産能力増強は継続していきます。

社会価値に関する経営指標では、新卒女性採用率が前年に続き目標を達成し、女性管理職比率も着実に改善しました。また、GHG排出量や水使用量は順調に削減が進む一方、廃棄物削減は計画に対して遅れがあり、度数率やワークエンゲージメントの改善も足踏み状態です。これらの指標の目標達成に向け、今後も継続的な取り組みを展開していきます。気候変動対策では、省エネ・創エネ・再エネを軸とした活動やTCFDに基づく対応が国際環境非営利団体CDPから高く評価され、2024年度も3年連続で「CDP気候変動」Aリスト企業に選定されました。更に、GHG削減目標はSBT認定を取得し、科学的根拠に基づいた取り組みを加速しています。